

令和6年度 事業計画

【認知症施策推進大綱 5つの柱に沿って施策を推進】

1. 普及啓発・本人発信支援

①認知症サポーター養成講座の実施

- 小中学校、妻高校等
- 職域への受講勧奨（金融機関、西都衛生公社、医療機関、介護保険事業所、商工会議所等）

②キャラバン・メイト意見交換会の開催

- 令和6年4月12日（金）にキャラバン・メイト意見交換会を開催し、新テキストの説明や班ごとに連絡方法等を確認。

③世界アルツハイマー月間における広報

- 西都市役所、図書館、パオ等において、認知症パネル展示、認知症関連パンフレット設置、認知症関連本の紹介、オレンジ作品展（認知症グループホームの作品展）等を実施。
- オレンジの花プロジェクトの実施。
- オレンジカフェ参加者やオレンジパートナーにも協力依頼する。

④認知症フォーラムの開催

別紙5、6

- 日時：令和6年7月14日（日） 開演：10時30分～12時20分（開場：10時）
場所：西都市文化ホール コミュニティプラザパオ 3階
テーマ：認知症になってもだいじょうぶ！ともに生きる西都市を目指して
講師：一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ代表 藤田 和子 氏
定員：415名

⑤本人発信支援

- 「希望の道（認知症希望大使によるメッセージ動画）」を出前講座等で上映する。
- 既存事業（認知症SOS事前登録、運転免許自主返納者の実態把握、認知症カフェ、百歳体操、個別相談時等）、関係機関との協働において、認知症本人の声を聴き、施策に反映する。
- 認知症本人やその家族にヘルプカードを紹介。必要に応じて一緒に作成する。
- 認知症本人の興味・関心のあることをできるように支援する。

⑥その他

- 広報さいと9月号や包括だよりに認知症に関する記事を掲載

2. 予防

①既存事業や出前講座における認知症予防の情報提供及び社会参加活動の促進

- サロン、百歳体操、認知症カフェ、運転免許自主返納者等に認知症予防の情報を提供する。
- サロンや百歳体操など社会活動に参加されていない方へ参加を勧奨する。
- 出前講座の内容としては、認知症早期受診勧奨やMCI、コグニサイズ等をベースに地域の実情に応じて対応する。
- 必要に応じて、主任ケアマネージャー・保健師・社会福祉士3職種や第1層生活支援コーディネーター等とも協働する。

②運転免許自主返納高齢者（同意者）への実態把握

- 免許返納により社会活動が低下し、認知症発症のリスクが高くなる方に対し、実態把握と情報提供を行う。
- 認知症本人やその家族にヘルプカードを紹介。必要に応じて一緒に作成する。

3. 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

①認知症地域支援推進員を各地区地域包括支援センターに1名ずつ配置

②認知症初期集中支援チームの活動

別紙4

（人員編成）

- 専門医…松本 英裕 氏（社会医療法人暁星会 三財病院 医師）
- 専門職…中武 潤弥 氏（社会医療法人暁星会 三財病院 社会福祉士）
- 土持 由香 氏（合同会社 As a person 訪問看護ステーションいいな 看護師）

③認知症カフェ（オレンジカフェ ホット・ハート in さいと）の開催 別紙7

毎月第4木曜日 13時30分～15時00分

④誰でもカフェの開催 別紙8

奇数月第2金曜日 13時30分～15時00分

⑤認知症あんしんガイド（ケアパス）の見直し・作成、活用 別紙10

- 1,400部作成し、関係機関に配布。市のホームページに掲載。
- 令和5年10月に新版が発行された認知症サポーター養成講座標準教材を参考に見直しを行う。

⑥医療機関とのネットワーク構築

- ケアパス配布、認知症フォーラムやパネル展示の広報時、情報交換する。

4. 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援

①西都市認知症SOSネットワークメール配信システム

- 認知症施策推進会議において、西都警察署、西都市消防本部、西都市民生委員児童委員協

議会を招き、意見交換。

- 西都市民生委員児童委員協議会、居宅介護支援事業所主任者会議、認知症サポーター養成講座、認知症カフェ等、既存事業や既存社会資源での登録の呼びかけを実施。

②西都市認知症 SOS ネットワーク事前登録

- 市民や関係機関に広く周知し、認知症の方を地域で見守る体制の構築につなげる。
- 居宅介護支援事業所主任者会議にて情報提供を行い、認知症により行方不明になるリスクの高い方を中心に呼びかけを実施。
- 地域包括支援センター、居宅介護支援事業所が把握した認知症による行方不明者について、年1回の報告を依頼。行方不明者の状況を把握し、認知症施策につなげる。
- 認知症本人やその家族にヘルプカードを紹介。必要に応じて一緒に作成する。

③チームオレンジの構築

- ステップアップ講座の開催。
- オレンジカフェや一体的支援事業、個別支援等をとおして、認知症本人や家族のやりたいこと・困りごととオレンジパートナーとのマッチングを支援する。

④ヘルプカード活用・推進

- ヘルプカード（緊急連絡先や必要な支援内容などが記載され、日常生活で困った際に、周囲の理解や支援を求めるためのカード）を、既存事業（事前登録者、チームオレンジ、オレンジカフェ、免許自主返納高齢者等）で把握した認知症本人やその家族に紹介。
- ヘルプカードの利用を希望する認知症本人と一緒に、ヘルプカードを作成する。

⑤認知症本人の社会参加支援

認知症本人が興味・関心のあることをできるように個別支援する。

⑥認知症の人と家族の一体的支援事業「元気を出そう会」

別紙9

毎月第3金曜日 13時30分～15時00分

⑦県が設置している若年性認知症コーディネーターによる相談窓口の周知及び連携

- ケアパスに相談窓口を掲載する。
- 対象者に応じて認知症地域支援推進員が若年性認知症コーディネーターと連携する。
- 県が作成している「若年性認知症コーディネーターチラシ」と「若年性認知症ハンドブック」を関係機関に配布する。

5. 研究開発・産業促進・国際展開

国の動向を随時確認し、必要に応じて発信する。